

GO



To REPUBLIC OF KOREA

留学先

大韓民国／全北大学
(2024.2～2025.1)

人間科学部・人間科学科心理学コース

久保 葵さん

興味を持っていた心理学を充実したカリキュラムで学べるうえ、韓国語を第二外国語として選択できることなどを理由に本学へ。歴史ある街に住みながら、長期留学で実践的な韓国語を身に付けたいと留学を決意。

関係を作るため自ら行動できるようになったことがいちばんの成長



留学先の全北大学は、「キャンパスが広く、伝統家屋」韓屋が基調」「日本語学科、メディアコミュニケーション学科がある」「自由に履修が組める」と久保さんの理想が揃った大学。「広告心理学や日韓の翻訳についての授業を主に取り、興味の赴くままに勉強できたのが楽しかった」と振り返ります。最初は韓国語に自信がなく黙り込んでしまうことが多かったそうですが、「大事なのは語学力じゃない」と気付き、コミュニケーションの取り方を変更。「表情やリアクションでも気持ちは伝わるし、仲良くなりたい気持ちや好意を示すことで関係は作っていける」と自ら行動できるように。日本語研究サークルの活動では昔から好きだった「ことば」への興味が大きくなり、韓国語だけでなく日本語の魅力を再確認したそうです。言語を勉強することで世界が広がる楽しさも実感し「自分らしい表現ができる文芸の翻訳に挑戦したい。そして翻訳を通して母国語の魅力に気づいてもらえるような活動をしたい」と話してくれました。



学部棟と寮の間にあるブランコ。目の前にはグラウンドが広がっていて眺めも最高。風を感じながら、ひとりでぼーっとする時間が癒やして、思い悩んだときよく座っていたそう。



サークルの友人がサプライズで開いてくれた送別会。ハングルで名前が彫られた印鑑をプレゼントされ、その場で友達契約書にサインと押印。契約書はサークル部屋に貼ってくれた。



BEYOND

From FEDERATIVE REPUBLIC OF BRAZIL

出身国

ブラジル連邦共和国
(2024.9より島根大学に留学)

法文学部 学部特別聴講学生

モツ・モニッケさん

専攻する日本語はもちろん、文化や文学、古典など幅広く学ぶ。特に好きな分野は研究テーマにも採用した文法。ブラジルにはポルトガル語で書かれた日本語教材が少なく、教育教材もほとんどないため、文法の教科書を作成する活動に励んでいる。



ブラジルで日本語や日本文化の普及をサポートしたい。

「ブラジルでは日本語に触れる機会が少なく、良い研究者になるためには日本への留学が不可欠だ」と感じていました」と語るモツ・モニッケさん。サンパウロ州で育ち、穏やかな暮らしを好む彼女が選んだのは、島根大学でした。首都圏や外国人の多い場所ではなく、自然が豊かで伝統文化が残る松江市の環境は、言語を研究する上で理想的な場所だったといいます。留学前は不安もあったものの、「行けばきっと何とかなる」との思いで日本行きを決意。留学し、さまざまな経験を積んだからこそ、今では「何でもできる」と、自信と可能性を実感しています。

日本語力の向上はもちろん、世界各国から集まった留学生との出会いを通して異文化の多様性にも触れ、自分自身や母国についての理解も深まりました。

「夢は、大学教授として働きながら研究を続けることです。ブラジルには多くの日系人がいますが、日本語や日本文化はあまり普及していません。ここでの学びを、ブラジルにおける日本語研究に生かし、先生方や関係者にフィードバックしていきたいです」と、将来への思いを力強く語ってくれました。



ブラジルではできないからこそ、やってみるべきとチャレンジしたスキー体験。大山に大学の人々と行ったのは楽しい思い出です。



文化の日を訪れた「由志園」では、着物を着る機会も。大根島までドライブし、ジブリ映画のような景色に魅了されました。